

道路橋塩害メンテ紹介

金沢工大などで技術展示会

全国的に老朽化が問題になっている道路橋のメンテナンスに関する技術展示会が六日、金沢工業大（野々口市）などであった。金沢工大や金沢大、富山県立大、福井大の四十六歳以下の若手教員らが技術的な支援をしようと、本年度から進める取り組みの一つとして企画した。（鴨宮隆史）



担当者の説明を聞く来場者ら
＝野々口市の金沢工業大で

18団体がブース開設

北陸地方では特に海側からの風や凍結防止剤の散布により、道路橋の塩害の進行が早い。コンクリート内のアルカリ性の成分が砂利や砂に反応して起きるアルカリシリカ反応と呼ばれる劣化により、コンクリートにひび割れが起きやすいとされる。

会場では十八団体がブースを開設し、県内などの自治体関係者やコンクリート診断士、技術士らが来場。国立研究開発法人産業技術総合研究所（茨城県）は人工知能（AI）を使ってハンマーなどの打音に異常があれば端末に通知するシステムを紹介した。

中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋（名古屋）は三次元レーダーで道路内部の劣化を調査できる技術、金沢工大徳永研究室はドローン（小型無人機）や無線操縦のボートを利用した橋などを検査できるシステムを提案。来場者は説明を聞いた後、熱心に質問するなどしていた。

技術展示会は富山市民プラザ（富山市）でも開かれた。